徳島市の中心市街地における空き店舗を活用した
地域交流拠点の形成に関する研究

建築計画研究室　伊藤　希帆

（令和 5 年 2 月 8 日提出）

１．研究背景と目的

現在、徳島市の中心市街地における人口は年々減少すると共に、高齢化が進んでいる。また、中心市街地には空き店舗や空き地が点在しており、2016 年度に実施した空き家の実態調査では、徳島市の空き家数は 3,563 件で、その割合は 2.4%となっている[1)]。このまま人口減少及び高齢化が進めば、空き家・空き店舗の割合もさらに上昇する恐れがある。それに加えて、新型コロナウイルスの影響でさらに人間関係の希薄化が進んでいるように感じる。実際、徳島県内でも自治会の世帯加入率は右肩下がりで、新型コロナウイルス感染拡大による活動停滞で自治会離れが加速しているという問題もある。

このような状況の中で、徳島市には「ひょうたん島まちなか再生機構」という徳島市の中心市街地を活動の拠点とする人々から構成される団体がある。この団体は 2040 年の徳島市の中心市街地がどうあるべきかという未来ビジョンを考え、活動している。

そこで、本研究では、ひょうたん島未来ビジョンをモデルケースに、実際の空き店舗を利用した社会実験を通して、空き店舗の商業利用以外の活用方法として交流拠点を形成する方法について明らかにする。

２．空き店舗を活用した交流拠点の形成によって期待できる効果

急速に少子高齢化が進展している社会状況を受けて、既存の仕組みとしての公助や共助の活用のみならず、自己努力としての自助、地域の人々によって形づくられる互助を重層的・複合的に機能させることが必要である。しかし、核家族化が進み、家族関係や地域との繋がりが希薄になっていく中で、個人主義的な思考の広まりにより、血縁的関係や地縁的関係が重視されなくなったことが指摘されている。このような問題を解決するためのひとつの手立てとして、昨今「社会的な居場所づくり」への関心が高まっている。

交流拠点は人の生活を豊かにするとともに、①既存コミュニティの活動を活性化する効果②新たな出会いや交流を生む効果③空き店舗を活用することで地域課題解決の 3 つの効果を期待できる。

３．交流拠点「まちの縁が輪」における社会実験

2022 年 7 月 1 日～2023 年 1 月 31 日の活動記録を記す。社会実験期間中のまちの縁が輪の来客者の目的別総数(図 1)を以下に示す。

図 1 より、来客者数は増加傾向にあることが分かる。それは、社会実験の中でまちの縁が輪の認知度が上がったことを意味する。また、ミニセミナーやワークショップといったまちの縁が輪が主催する自主館事業の他にまちの縁が輪以外の団体又は個人がまちの縁が輪を利用した事業を行うことで、人との交流や新たな取り組みが生まれた。さらに、空き店舗であった場所に幅広い年代層の人々が出入りすることで、まちに賑わいを創出させた。

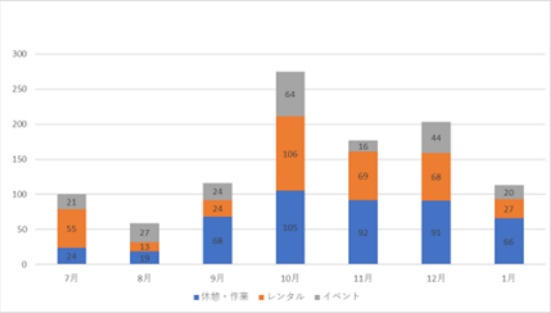

図 1　利用目的別の来客者数(単位：人)

1)自主事業

まちの縁が輪が主催とするイベントやワークショップを自主事業として実施した。自主事業で得られた効果として、上記に記載した①既存ミュニティの活動を活性化する効果②新たな出会いや交流を生む効果③地域課題解決の効果について考察する。

①既存ミュニティの活動を活性化する効果については、セミナーでの交流の中で、個人同士の繋がりは生まれたが、実際に活動が生まれたことはなかったため、既存コミュニティの活性化にまでは至らなかった。②新たな出会いや交流を生む効果については、1 つのテーマに沿って話し合いの場を設けることで様々な人々からの意見を聞くことがで

き、さらに初対面の人との出会いや交流も生まれた。③地域課題解決の効果については、空き家・空き店舗の問題は深刻であり、完全な問題解決には至らなかった。しかし、空き店舗であった場所に幅広い年代層の人々が出入りすることでまちに賑わいを創出させた点において、少なくとも年々増加傾向にある空き店舗の問題解決に繋がったと考える。

よって、自主事業により②新たな出会いや交流を生む効果③地域課題解決の効果が得られたと考える。

2)貸館事業

まちの縁が輪以外の団体又は個人がまちの縁が輪を利用した事業を貸館事業として実施した。貸館事業で得られた効果として、上記に記載した①既存ミュニティの活動を活性化する効果②新たな出会いや交流を生む効果③地域課題解決の効果について考察する。

①既存ミュニティの活動を活性化する効果については、貸館事業を通して、様々な人や団体と出会い、その人又は団体と協働で新たな活動が生まれたことや、新しく発足した団体があった。②新たな出会いや交流を生む効果については、貸館事業を通して、初対面の人との会話を通して交流することを楽しんでいる人が多くいた。③地域課題解決の効については、空き家・空き店舗の問題は深刻であり、完全な問題解決には至らなかった。しかし、空き店舗であった場所に幅広い年代層の人々が出入りすることでまちに賑わいを創出させた点において、少なくとも年々増加傾向にある空き店舗の問題解決に繋がったと考える。

よって、貸館事業により①既存コミュニティの活動を活性化する効果②新たな出会いや交流を生む効果③地域課題解決の効果が得られたと考える。

4. 交流拠点「まちの縁が輪」が人に与えた影響について

社会実験を通して、まちの縁が輪は人と人だけでなく、人と団体、団体と団体を繋ぐ役割を担ったと言える。各々で活動していた団体が、まちの縁が輪を利用する中で他団体と知り合い共同でイベント等を行うことで新たな繋がりが生まれた(図 2)。

各々で活動していた人々や団体の間にまちの縁が輪のような交流拠点があることで、それぞれの人々や団体の活動を活発化させる効果が期待できる。また、交流拠点は利用者が増えることで情報が集まり、人々が新しい試みを持つきっかけを提供することができると考える。そのように新しく生まれた活動や団体を後押しできる場所としての役割も担えるのではないかと考える。

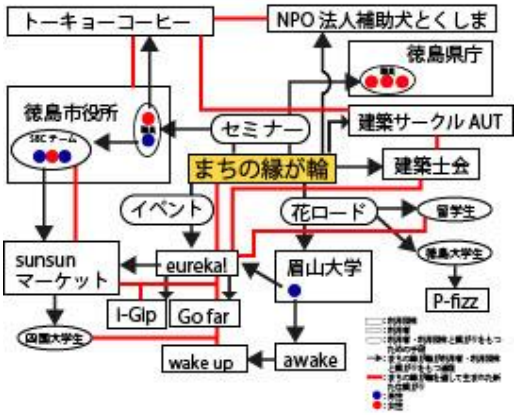

図 2　利用者及び団体の相関図

5. 結論

本研究の社会実験を通して、第 2 章で述べた交流拠点に期待する効果である、既存コミュニティの活動を活性化させる効果、新たな出会いや交流を生む効果、地域課題解決の効果は得られたと言える。

空き店舗であった場所を地域交流拠点とし地域の人々に向けて開放することで、初めは利用者も少数であったが、まちの縁が輪で行ったイベントを通して徐々に認知度も増していき、様々な人々や団体が利用するようになった。それに伴い、まちの縁が輪に情報も集まるようになった。その情報を必要な人に提供することで新たな交流や取り組みを生むきっかけになった例もあることから、まちの縁が輪は利用者や利用団体を繋ぐ役割を担っていたと考えられる。また、まちの縁が輪を継続して運営することを希望する利用者の声が多くあったことからも、このような交流拠点やサードプレイスがまちや人々にとって必要とされているものであり、生活を豊かなものにすると考えられる。

参考文献

1)徳島市,徳島市中心市街地活性化基本計画の策定に向けた基礎調査結果
https://www.city.tokushima.tokushima.jp/shisei/machi_keikaku/townplanning/chushin_kasseika/cskc-s-archive.files/cskc-1-s-ex-1.pdf　(2022.11.29 閲覧)